

## 大学生活における学びと満足度に関する調査 分析結果（自由記述以外）

### 1. アンケート実施期間・概要

アンケート名：大学生活における学びと満足度に関する調査

趣旨：大学の運営や教育の質向上に活かすことを目的としたものとして実施。

対象者：全学部生

回答者数：150 人

質問内容：別添要約版のとおり。

実施期間：2025 年 7 月 18 日～8 月 15 日

### 2. 結論：学生に届いていない大学の教育方針と、改善が求められる学生サポート

分析の結果、多くの学生が大学の教育方針である「3 ポリシー」をほとんど認知・活用できていない実態が明らかになった。学生の成長実感や満足度は全体的に高いものの、この課題を解決することが、大学全体の教育の質と学生満足度をさらに向上させる鍵となる。

### 3. 分析結果詳細

#### (1) 3 ポリシーの認知度：7 割以上の学生が内容を「知らない」

大学の教育の根幹である 3 ポリシーについて、その存在を「知らない」(23.3%)、または「聞いたことはあるが詳しくは知らない」(48.0%) と回答した学生が合計 71.3%に上り、学生への浸透が極めて低い状況である。内容を「知っている」学生は 28.7%に留まった。

特に学年別に見ると、1 年生の認知度が低い傾向にある。これは、入学時のガイダンス等で 3 ポリシーの重要性が十分に伝わっていない可能性を示唆する。

#### (2) 各ポリシーの活用状況：内容を理解せず、学びや進路選択に活かしていない

ポリシーの認知度不足は、学生生活における活用度の低さに直結している。

- **ディプロマポリシー (DP)**：卒業認定・学位授与の方針である DP を、学びやキャリア形成に「あまり活用していない」(49.3%)、「全く活用していない」(28.7%) 学生が合計 78.0%を占め、DP が学生個々の学習目標設定に結びついていない。
- **カリキュラムポリシー (CP)**：教育課程の編成方針である CP を、履修計画の際に「ほとんど参考にしていない」(37.3%)、「全く参考にしていない」(24.7%) 学生が合計 62.0%に達しており、場当たりの科目選択につながっている可能性がある。
- **アドミッションポリシー (AP)**：入学者受け入れの方針である AP が、大学を選ぶ際に「あまり参考にならなかった」(15.1%) と回答した学生もあり、入学段階でのミスマッチを防ぐ役割を十分に果たせていない可能性が示唆される。

### 3. 学生の成長実感と満足度：全体的に高い

- **成長実感**：「非常に成長を実感している」（16.7%）、「ある程度成長を実感している」（64.0%）と、合計 80.7%の学生が自身の成長を肯定的に捉えている。
- **大学生活満足度**：「非常に満足している」（10.7%）、「満足している」（48.0%）を合わせ、58.7%の学生が満足していると回答しており、大学生活に対しては総じてポジティブな評価が多いことがわかる。